

## 外部評価委員会報告

平成17年1月31日

福岡県保健福祉部長 狩野 俊秀 } 殿  
// 環境部長 原 明輝 }

福岡県保健環境関係試験研究外部評価委員会  
会長 井上 尚英

平成16年度福岡県保健環境関係試験研究外部評価報告書

1 はじめに

本評価委員会は、「福岡県保健環境研究所における試験研究の効率的・効果的な実施と活性化及び透明性の確保」を図るため、平成14年12月に設置されたものである。

今回、平成16年度評価委員会を平成16年10月25日に開催し、平成15年度終了課題・平成17年度新規課題について評価するとともに、研究所業務全般に対する意見を提出した。

今回の評価結果・意見を参考に、福岡県保健環境研究所が「保健・環境行政を科学的・技術的側面から支える中核機関」として、変化する時代の要請に的確に応えることを期待する。

2 評価委員会の評価結果

(1) 調査研究業務について

ア 平成15年度終了課題

9課題(保健関係5課題, 環境関係4課題)について評価し、意見を提出した。

主な意見は次のとおりである。

(保健関係)

課題名	研究期間	主な意見
SRSVを原因とするウイルス性食中毒の高感度検出法の開発	H 13-15	おおむね研究目標が達成されており、新規知見もある程度得られている。
エイズ予防対策としての福岡県におけるHIV-1分離株の解析	H 13-15	所期の研究成果が得られている。 研究を継続し、九州の中核研究機関としての地位を確立してもらいたい。
インフルエンザウイルスの流行株の解析	H 13-15	費用対効果の高い成果が得られている。 他県との連携も視野に入れ、研究を発展してもらいたい。
油症及びダイオキシン類に関する研究 -ダイオキシン類追跡調査及び体外排泄に関する研究-	H 13-15	多くの研究成果が得られており、社会的貢献度も高い。 アジア地域への貢献も含めて、さらに研究を発展してもらいたい。
ダイオキシン類の排泄促進に関する研究 -ダイオキシンの人体汚染防止及び食生活指針に関する研究-	H 13-15	所期の研究成果が得られている。 県民への成果普及(情報提供)を行ってもらいたい。

(環境関係)

課題名	研究期間	主な意見
大気中ダイオキシン類関連化合物の植物葉への沈着状況解明のためのモデル植物葉試作と大気長期計測法の開発	H 14-15	おおむね研究目標が達成されている。 実用化可能な手法の完成を目指してもらいたい。
底質中のダイオキシン類の処理に関する研究	H 14-15	研究成果を今後の大牟田川対策に十分に活用してもらいたい。
廃棄物埋立処分場の適正管理に関する研究	H 13-15	社会貢献度の高い成果が得られている。 可能であれば、有害ガス発生や火災発生の防止技術に関しても検討してもらいたい。
生活環境中のラドン等の動態と低減化に関する研究	H 14-15	所期の研究成果が得られており、新規かつ有用な知見も得られている。 今後、より詳細な検討により、一般に利用可能な情報を提供してもらいたい。

イ 平成 17 度新規課題

8 課題(保健関係 7 課題, 環境関係 1 課題)について評価し, 意見を提出した。  
主な意見は次のとおりである。

(保健関係)

課題名	研究期間	主な意見
腸管凝集付着性大腸菌の検出方法に関する研究	H 17-19	迅速, 簡便かつ精度の高い検査方法を, できるだけ早期に確立してもらいたい。
ウイルス性食中毒検査法の開発	H 17-18	関連団体(漁協・外食産業等)との連携も視野に入れ, 研究を発展してもらいたい。
鶏肉のサルモネラ汚染状況を改善するための基礎的研究	H 17-19	他機関(養鶏業者・農政部局・他県の研究機関等)との連携も視野に入れ, 研究を発展してもらいたい。
食品中ダイオキシン類の高感度・迅速分析方法の開発に関する研究	H 17-18	海産物など広い食品に応用可能な検査法を確立してもらいたい。
有害有機臭素化合物の食品汚染実態の把握に関する研究	H 17-19	食品以外の汚染実態についても調査(把握)してもらいたい。
福岡県感染症発生動向調査事業についてホームページを用いた情報還元方法の開発	H 17-19	流行予測や感染予防に役立つ情報還元方法を確立してもらいたい。
福岡県における健康情報システムの確立とその応用に関する研究	H 17-19	福岡県の特徴を明らかにするとともに, 市町村レベルでの相互比較を可能とするシステムを構築してもらいたい。

(環境関係)

課題名	研究期間	主な意見
揮発性有機化合物(VOC)の排出実態と環境濃度に関する研究	H 17-19	時空間スケールを考慮した VOC 対策の基礎資料を提供してもらいたい。

ウ その他（各研究分野全般について）

保健環境研究所において実施されている8研究分野に関し意見を提出した。  
その概要は次のとおりである。

区分	分野	主な意見
保健 関係	感染症の発生・拡大防止及び食品の安全性確保に関する研究	フードアイランド九州にとって、最も重点がおかれるべき研究分野である。 アジアに視点を広げた研究なども検討してもらいたい。
	ダイオキシン類及び有害化学物質による健康被害の防止とその対策に関する研究	健康被害防止のため、今後とも継続を要する研究分野である。 成長著しい中国への情報提供・技術移転なども検討してもらいたい。
	地域保健情報の解析・評価及びその活用に関する研究	調査研究の成果を活かす要の研究分野である。 行政施策にとっても重要な研究分野である。
環境 関係	ダイオキシン類，有害化学物質に関する研究	有害化学物質の環境影響は，社会的関心の高い分野である。研究の更なる活性化を望む。
	大気環境汚染とその対策に関する研究	経済発展の著しい中国からの影響などもあり，今後重要性の高まる研究分野である。 汚染物質により時空間スケールが異なるなど容易でない研究分野であるが，今後とも研究を継続してもらいたい。
	水環境汚染とその対策に関する研究	水環境汚染の次の段階である生物影響も視野に入れ，研究を実施してもらいたい。
	廃棄物の安全性と有効利用に関する研究	廃棄物埋立処分場跡地の安全性・安定化に関する研究も検討してもらいたい。
	福岡県の自然環境と生物多様性の保全に関する研究	福岡県の自然環境面での特徴を明らかにし，全国的にアピールしてもらいたい。 NPOとの協働についても検討してもらいたい。
	理学的要因による環境影響とその対策に関する研究	目立たないが，欠かすことの出来ない研究分野である。 継続した研究を期待する。

## (2) 研究所業務全般について

保健環境研究所の業務全般に関し意見を提出した。

その概要は次のとおりである。

項目	主な意見
調査研究業務	<ul style="list-style-type: none"><li>・ かなり高いレベルでの研究が行われている。</li><li>・ 今後とも、高いレベルでの研究を維持するとともに、県民へのアピールを強化してもらいたい。</li><li>・ 研究所の研究戦略を明確化してもらいたい。</li><li>・ 外部研究機関（他県の研究機関等）や関連団体（漁協・外食産業・養鶏業者等）等との連携を強化してもらいたい。</li><li>・ 知的所有権（特許等）への取組を強化してもらいたい。</li><li>・ 県民参加型の協働研究を推進してもらいたい。</li></ul>
試験検査業務	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 試験検査業務の体制について、アウトソーシングやパート職員の活用なども含め検討してもらいたい。</li><li>・ 緊急時に対応できる体制づくりの一環として、政令市研究機関との連携を強化してもらいたい。</li></ul>
教育研修・情報提供業務	<ul style="list-style-type: none"><li>・ (九州の)地方衛生研究所間の情報交換システムを、福岡県が中心となり構築してもらいたい。</li><li>・ 正しい情報を、県民に直接・リアルタイムに提供することを心がけてもらいたい。</li><li>・ 特に、マスコミを活用したアピールを強化してもらいたい。</li></ul>

## 3 おわりに

研究所のモラル（志気）を維持・向上させるために、人員・予算・施設・人的交流などの環境整備を早急に推進していくことが望まれる。

## 福岡県保健環境関係試験研究外部評価委員会委員名簿

役職	氏名	現職名
会長	いのうえなおひで 井上 尚英	九州大学大学院 医学研究院 名誉教授
副会長	くすだてつや 楠田 哲也	九州大学大学院 工学研究院 教授
	いけだとしひこ 池田 俊彦	(社)福岡県医師会 副会長
	たにぐちはつみ 谷口 初美	産業医科大学 医学部 教授
	まつふじやすし 松藤 康司	福岡大学 工学部 教授
	じんないかずひこ 陣内 和彦	九州大学 知的財産本部 アドバイザー
	とりまるさとし 鳥丸 聡	福岡大学 非常勤講師
	むらやまひろとし 村山 博俊	福岡県弁護士会

## 平成16年度外部評価結果を受けて

福岡県保健環境研究所 所長 吉村 健清

### 1 はじめに

平成16年10月25日に開催された「福岡県保健環境関係試験研究外部評価委員会（会長：井上 尚英<sup>いのうえ なおひで</sup>九州大学大学院名誉教授）」において調査研究課題（平成15年度終了課題・平成17年度新規課題）に係る評価が行われ、その結果が研究所業務全般に対する意見とともに、「平成16年度福岡県保健環境関係試験研究外部評価報告書」として提出されました。

提出された評価結果・意見には、制度上の問題など中長期的に検討を要する課題も含まれておりますが、これら評価結果・意見を今後の業務に十分に反映させ、研究所の活性化・志気向上に取り組んでいきます。

### 2 主な評価結果、指摘・助言事項、及び保健環境研究所における対応

#### (1) 調査研究業務について

平成15年度終了課題（9課題）及び平成17年度新規課題（8課題）について評価いただきましたが、これらの評価結果については、今後の研究活動の改善、研究計画の調整・見直しなどに活用するため、各研究代表者（グループ）に還元させていただきました。

また、各研究分野全般について御指摘・御助言をいただきましたが、これらについては、今後の新規研究課題（テーマ）の設定などの参考とさせていただくこととしております。

今後とも、委員会の御指摘・御助言を踏まえ、調査研究活動の積極的な展開を図っていきます。

#### (2) 研究所業務全般について

##### ア 調査研究業務(全般)について

###### (指摘・助言事項)

- ・ かなり高いレベルでの研究が行われている。  
今後とも、高いレベルでの研究を維持するとともに、県民へのアピールを強化してもらいたい。
- ・ 研究所の研究戦略を明確化してもらいたい。
- ・ 外部研究機関（他県の研究機関等）や関連団体（漁協・外食産業・養鶏業者等）等との連携を強化してもらいたい。
- ・ 知的所有権(特許等)への取組を強化してもらいたい。
- ・ 県民参加型の協働研究を推進してもらいたい。（NPO等との協働）

###### (保健環境研究所における対応)

- ・ 調査研究の成果については、成果発表会の開催などにより、県民への積極的な還元に努めます。
- ・ 研究所の研究戦略については、行政課題・県民ニーズなどを踏まえ作成することが必要となりますので、関係機関（本庁関係課等）と連携し今後検討を行います。
- ・ 外部研究機関や関連団体等との交流については、積極的に取り組んでいきます。
- ・ 知的財産権への取組強化のため、研究成果の実用化に係る検討を推進します。
- ・ 県民参加型の協働研究については、自然環境分野で既に実施しておりますが、他の分野での実施についても検討します。

## イ 試験検査業務について

### (指摘・助言事項)

- ・ 試験検査業務の体制について、アウトソーシング・パート職員の活用なども含め検討してもらいたい。
- ・ 緊急時に対応できる体制づくりの一環として、政令市研究機関との連携を強化してもらいたい。

### (保健環境研究所における対応)

- ・ 試験検査業務の体制については、県民サービスの低下を招かないことを基本にしつつ、今後検討を行います。
- ・ 緊急時における政令市研究機関との連携については、福岡県健康危機管理対策会議として体制整備を既に行っておりますので、今後とも引き続き連携強化に努めます。

## ウ 教育研修・情報提供業務について

### (指摘・助言事項)

- ・ (九州の)地方衛生研究所間の情報交換システムを、福岡県が中心となり構築してもらいたい。
- ・ 正しい情報を、県民に直接・リアルタイムに提供することを心がけてもらいたい。  
特に、マスコミを活用したアピールを強化してもらいたい。

### (保健環境研究所における対応)

- ・ 九州の地方衛生研究所間における情報交換については、九州衛生環境技術協議会などにおいて既に取り組んでおりますので、今後とも積極的な情報交換に努めます。
- ・ 県民への情報提供については、マスコミへの情報提供も含め、今後とも積極的な実施に努めます。